臨床研究に関する情報公開

研究課題：抗サイトメガロウイルス IgG 抗体並びに抗トキソプラズマ IgG 抗体のアビディティー検査の確立と臨床的意義に関する研究

研究目的：

妊娠初期のサイトメガロウイルスやトキソプラズマの感染は胎児に重大な障害をもたらします。しかしながら両感染症とも発症することはないので血清抗体でしか感染の有無を知ることはできません。ここで大切なことは感染の時期を知ることですが、その方法は従来よりありません。そこで IgG 抗体のアビディティー（親和性）の変化が感染の時期により変化するという原理を応用して、当科では新しい検査法の開発を行ってきました。今回、厚労省の「母子感染の実態把握及び検査・治療に関する研究」（研究責任者　藤井知行東京大学大学院医学系研究科女性診療科・産科教授）班にこのことが取り上げられ、当科は長年この方面の研究を行ってきたこともあり、研究班に参加することになりました。

研究対象：

妊娠中にサイトメガロウイルス或いはトキソプラズマの感染が疑われ当科に管理や治療に関するコンサルトを求めて来院された妊婦様です。

研究方法：

これらの妊婦様から得た血清について当科でサイトメガロウイルス又はトキソプラズマに対する IgG 抗体、IgM 抗体、IgG 抗体アビディティーを測定したものについて上記研究班にサイトメガロウイルス抗体陽性血清 20 検体、トキソプラズマ抗体陽性 21 検体を、わが国における標準的 IgG 抗体アビディティー検査法確立のために提供しました。この際、個人名や個人情報に関する情報はすべて消してコード化してありますので個人情報は完全に守られます。

研究期間は 2014 年 4 月から 2018 年 7 月までを予定しています。なお、本研究は平成 26 年 8 月 18 日帝京大学医学部倫理審査委員会の承認を得ております。（帝倫 13-255-2 号）

本研究班により本邦における標準的な IgG 抗体アビディティー測定法が確立され、その臨床的意義が明らかになれば、今後の妊婦管理に多大な利益をもたらすことになり、その結果妊娠中これらの感染症による障害児を減らすことが期待されます。

連絡先：この件に関するお問い合わせは以下にお願いします。

帝京大学医学部附属溝口病院　産婦人科　川名　尚、土屋裕子

TEL 044-844-3333（代）